

インターンシップ報告会

10月にインターンシップ報告会をⅠ（グループディスカッション）、Ⅱ（代表者による体験発表）と2回に分けて実施した。10月17日、18日に参加者によるインターンシップ報告会Ⅰを実施し、その後、10月26日に全学生に公開の形でインターンシップ報告会Ⅱを実施した。

インターンシップ報告会Ⅰでは、インターンシップ参加者が、パワーポイントの画像を用いたポスターセッション形式で、それぞれの実習概要、成果や今後の目標などをグループ内で報告した。その後、グループディスカッションを通してインターンシップの振り返りを行い、さらに考察を深めた。全体会でそれぞれのグループ協議内容を報告し、共有を図った。その後、就職活動を終えた昨年度本インターンシップ参加の4回生から、就職活動体験談および今後のアドバイスをもらった。

以下は、グループ協議の協議内容の抜粋である。

① インターンシップ 就業体験を振り返って

(ア)どのようなことを学んだか

A 仕事や職場に係わること

- ・コミュニケーションの重要性
- ・チームワークの大切さ
- ・安全管理
- ・報・連・相の大切さ
- ・仕事には責任が伴うこと
- ・具体的な業務内容
- ・自分自身で仕事を管理すること
- ・職場の人間関係の大切さ
- ・臆せず質問することの大切さ
- ・素早く正確な作業
- ・職場の雰囲気づくり

B 自己の能力や適性、姿勢などに係わること

- ・コミュニケーション力の必要性
- ・ビジネスマナー
- ・人の話を聞く力
- ・笑顔とあいさつの大切さ
- ・積極的に動くこと
- ・専門的知識の必要性
- ・スケジュール管理の大切さ
- ・自己の強みと弱みの理解
- ・自分の考えをまとめる力
- ・指示待ちでなく、自主的に行動することの大切さ

C 有益な指導や助言

- ・自分の軸を持つ
- ・経験を積む
- ・アドリブの重要性
- ・自分磨きの大切さ
- ・自分の価値観を大切にすること
- ・逆算する考え方
- ・違う意見も柔軟に受け入れること大切さ

- ・失敗はするものであり、そのあとにどう対応するかが大切
- ・できないことは「できない」といってよい

(イ)社会人として働くうえで必要と思う資質

- ・十分な知識
- ・向上心
- ・計画性
- ・判断力・根気
- ・あいさつができること
- ・時間厳守の姿勢
- ・思考力・問題解決能力
- ・周囲との協調とコミュニケーション力
- ・わからないことは聞き、確認する姿勢
- ・ビジネスマナー
- ・協調性
- ・体力
- ・臨機応変に対応する力
- ・責任感

(ウ)これからの具体的な自己目標

(就きたい業界・職種、進路など)

- ・公務員関係
- ・営業(企画型)
- ・教員
- ・大学院への進学
- ・SE、プログラマー
- ・本にかかわる仕事

(必要な能力・取り組んでいきたいことなど)

- ・コミュニケーション力
- ・常に学ぶ姿勢
- ・様々なことに対応していく力
- ・専門性
- ・経験を積むこと
- ・自己分析と業界分析を進めること
- ・興味のあることにチャレンジ
- ・積極性
- ・幅広い知識、理解力
- ・自己アピール力

② インターンシップの受入れ先について

(ア) 受入れ先の対応について良かったこと

- ・実際に様々な業務を体験することができた。
- ・担当の方がやさしく、いろいろな話をしていただいた。
- ・質問にきちんと答えてくださり、丁寧な対応をしてくださった。
- ・質問しやすい空気を作っていただいた。
- ・緊急時にうまく日程調整をしていただいた。
- ・市長と対話の機会に恵まれた。
- ・様々な仕事が体験できるプログラムを組んでくださった。
- ・差し入れをいただいた。
- ・昼食の援助があった。
- ・スキマの時間にもいろいろアドバイスをいただき、仕事のことだけでなくキャリア等に関しても様々な話を伺うことができた。

(イ) 受入れ先の対応で改善してほしいことや要望

- ・業務量が少なかった。
- ・他大学生との交流があればよかった。
- ・日程調整などの対応が遅かった。
- ・研修量や休憩時間が少なかった。

③ インターンシップに関する大学への意見

- ・公務員関係の提携先をもっと増やしてほしい。
- ・文系学部向けの実習先を増やしてほしい。
- ・交通費、宿泊費などの補助を増やしてほしい。
- ・マナー講座や事前研修などが充実しているように感じたので、今後も継続してほしい。
- ・インターンシップに参加するにあたり、前年度参加した人がどんな業務を経験したのかを簡単で良いので知りたいと思った。
- ・マナー講座は、マナーを確認するだけでなく、他のインターンシップ生と関わる機会になりとても良い。
- ・インターンシップをより良いものにするためには、行き先の会社の下調べはとても大切だと思った。本学のインターンシップは、事前に企業のことを調べる機会にもなり、いろいろと準備してインターンシップに臨めるため、この形式を継続してほしい。

- ・2回生が参加しやすいように2回生向けに積極的に募集を行ったり、受け入れ先を増やしたりすることも必要である。

④ インターンシップの就業体験は、どのような意義があると思うか

- ・業界理解
- ・興味関心が広がる。
- ・思っていることと現実とのギャップを知ることができる。
- ・就職活動のイメージがわく。
- ・働く自分のイメージを持てた。
- ・視野が広がり、考え方が変わる。
- ・仕事のスケジュール感の理解につながる。
- ・自分の得意分野と不得意分野を知ることができる。
- ・職場の雰囲気や社会人の生活を知ることができる。
- ・職業を選ぶきっかけづくりになる。
- ・働くことのイメージがつかめ、その業種や業務が、自己の適性に合うか合わないかの判断ができる。

⑤ 社員・職員の方および他大学生と接して学習したこと、感じたこと

- ・専門外の知識も必要
- ・わからない場合には周囲の人に聞けばよいことが分かった。
- ・他の人と比べることで、自分が成長できる。
- ・異なる視点の人と出会うことで自分の視点が広がる。
- ・自分の仕事に誇りを持っている方が多い。
- ・第一印象(あいさつやコミュニケーション)の大切さ
- ・自分を客観視することができた。
- ・自分の軸をしっかり持つこと
- ・「この人と一緒に働きたい」と思ってもらえる人になる。
- ・地域や住民のことを頭に入れて働くこと
- ・ルールの中で最大限の成果を出す。
- ・臨機応変の対応力が必要
- ・県大のサポートの手厚さ

⑥ 「働く」とは、どのようなことか

- ・自己実現
- ・社会貢献
- ・責任をもって行動すること
- ・お金を稼ぐこと

- ・自分のスキルを社会に還元すること
- ・自分の存在価値を実感
- ・生きていくうえで必要なこと
- ・他人のために働くこと
- ・自分の人生を豊かにすること
- ・仕事は一人でするものではないということ
- ・周囲と協力し、楽しく自己実現

これからインターンシップに参加する後輩へのアドバイス(抜粋)

① 参加することに迷っている後輩へ

- ・インターンシップ参加を迷っている学生は、ぜひ参加してほしいと思う。なぜなら、実際の業務を通して自分自身と向き合い、これからの進路実現に向けての筋道を立てることができるからだ。私の場合、インターンシップに参加して自分自身の課題を多く見つけることができた。例えば、グループワークを行う際には発言力が、企業訪問を行った際は質問力が、またお世話になった課の方とお話する際はコミュニケーション力がそれぞれ欠けていた。これらはすべて、私にとってはかなりの難題であり、今回インターンシップに参加して初めて自分の力不足を痛感した。ただ、それは私にとって進路実現のための道筋ともいえる。単に業務内容を知るだけでなく、今の私には何が足りないのか、何を努力していく必要があるのか、このようなことを知るためにもぜひインターンシップに参加してほしいと考える。
- ・インターンシップに1社だけでも参加するのとしらないのでは大きな違いが出てくると思います。実際に見たり、経験したりしないとわからないことは多いので、オンラインのインターンシップも重要ですが、対面のインターンシップの方が多くの学びが得られると感じました。実際にインターンシップに参加して、その業界が自分に合うと思うことが正解ではなく、違うと感じたならそれも気づきだと思うので、まずは1社参加することをおすすめします。
- ・今回のインターンシップでは、職員の方々が丁寧に温かく指導していただき、業務を進めることができました。様々な人との関わりの中で、通常の大学生活以上にコミュニケーション能力を向上させることができると考えます。多くの経験をすることは大切であると思うので、ぜひ挑戦してみることをお勧めします。
- ・協定型インターンシップでは、実習中だけではなく、マナー講座から事後報告まで面倒を見てくださるので、とても有意義で貴重な経験になると思います。私も最初は参加するかどうか迷いましたが、応募するとやる気が湧いてきてインターンシップへのモチベーションが高くなったので、応募するか迷ったら応募した方が得です。
- ・マイナビなどから応募できるインターンシップはオンラインや対面でも1日2日のものが多く、10日間のインターンシップはそれらに比べると長くてハードルが少し高いかもしれません。しかし、技術系に関しては長く体験することで実験から発表までを体験できたり、得るものもたくさんあったので是非参加をお勧めします。

② 時期・期間および志望先について

- ・1Day のインターンに比べて、協定型のインターンは5Days やそれ以上の場合は

多いため、その業種のことについて深く理解することが出来る。実際にインターンシップ先の社員の方に有益な情報をもらえることもあるため、業界研究をする上でも非常に貴重な機会になる。

- ・インターンシップに参加するにあたり、事務処理が多かったり事前研修に参加する必要があったりなど、面倒に感じて避けてしまう方がいるかもしれません。しかし、それらの事前準備は大学の手厚いサポートの現れであり、マナー講座は今後の社会生活にも役に立つ内容です。ぜひ、参加してもらいたいです。また、アルバイトを行っている方の中には、働くことは経験しているからとの理由からインターンシップの参加を見送る方もいらっしゃるのではないのでしょうか。しかし、アルバイトとインターンシップは違います。私とその違いを一番感じたのは、勤務時間です。通勤で5日間、約7時間の勤務をアルバイトで行っている方は少ないと思います。社会人の生活リズムを体験出来たのは良かったと感じています。
- ・実習先の都合が優先なので、夏休み中はできるだけスケジュールを空けておいた方が良いでしょう。
- ・3年生でインターンシップに参加する場合は、4月、5月ごろから情報収集を行う必要があると思う。

③ 事前準備について

- ・インターンシップに行く前に、あらかじめ質問したい内容を考えておくといいと思います。例えば今までで一番大変だったことや、やりがいなどです。またインターンシップにはできるだけ対面で参加してみることをお勧めします。オンラインにもメリットはありますが、対面だと職場の雰囲気がとてもよく分かります。
- ・この制度を利用して長期のインターンシップに参加することはとても有意義なことであるので積極的に参加した方がよいと思う。参加する前には学校でビジネスマナー研修を開催していただけるので準備をしっかりとった状態でインターンシップに臨むことが出来る。その研修会の中で正しい敬語の使い方や礼儀、マナーを習得することが出来たので良かった。インターンシップ中では、人事部の方をはじめとする様々な役職、年齢層の社員の方と交流することができる良い機会をいただける。
- ・私は自分が勉強している内容とは異なる部署に行きました。そのため、基礎知識が全くなかったので事前勉強を念入りにしました。しかし、現地に行って質問するときあまり良い質問が出来ず、聞きたいことも上手く言葉にできなかったのも事業内容だけではなく、よく使う専門用語は覚えていった方がよいと思いました。インターンシップの良い点として一番感じたことは色んな学校の人と就職の情報を交換できることです。私の周りには大学院を目指している人が多いため、周りに

就活について相談できる人が少ないです。そのため、インターンシップ先で知り合った人と他にはどのような企業を受けているのか、インターンシップに行ってみて印象が良かったところや想像と違ったところなど様々な情報を交換することができました。

- ・夏季実習を終えて、事前学習が非常に大事だと思いまいた。参加前の私は、研究や就活の経験から志望している技官の分野に対してそれなりの理解があるつもりでした。しかし実際の現場では分からない事も多く、自分の専門分野への知識の無さを痛感しました。これは理系に限った話ではなく、自身の専攻・志望している分野と、参加する企業の仕事がどのように関わっていて、何が必要とされているのかを事前に考えておくことが大事だと思いました。加えて、大学で学んだ専攻分野の授業をもう一度復習しておくこと、企業への理解もより一層深まるため、良いインターンが送れると思います。
- ・滋賀県の公務員に関しては、公募での応募締め切りでも例年6月中旬であり志望理由等も提出しないといけないため早めの準備が必要であると感じた。

④ 参加する上での態度や心がけ

- ・自由応募型だと、応募したあとに気が向かなければキャンセルをすることができますが、協定型は応募するとキャンセルをすることはできません。エントリーから実習に行くまでに気が変わっても行くしかないということになります。もし行きたい気持ちが薄れてしまって気が乗らなくなっても、実際にインターンシップに行くたくさん得られることがあるので、勇気を振り絞って協定型のインターンシップに応募してみてください。
- ・インターンシップ、自分の将来のことについて少しでも迷っていたら是非参加してみてください。きっとみなさんの役に立つと思います。事前にインターンシップを通して何を学びたいのかを自分の中で明確にしておくことや、インターンシップ先の事業を調べておくことが重要です。メモ帳は肌身離さず持っておいてください。受動的になってただ言われたことをするのではなく、積極的に、自ら何か得ようと思っで行動することが大切です。正直、積極的に取り組んだかそうでないかでかなり大きな差が生まれます。せっかく何日もかけて参加するのなら有意義なものにしましょう！
- ・はじめは特に緊張すると思うが、とにかく明るく元気にということを意識していれば、良い印象を持ってくださると思う。挨拶や電話・メールのマナーなどはよく見られているところだと感じたので、失礼のないように気をつけたい。意見を求められることが多々あるので、常に自分の考えをしっかりと持って挑むとよい。また、質問の機会があれば、事前に考えていたものや疑問に思ったことをあまり遠慮せず聞いたほうが、よりインターンシップが充実したものになると思う。

⑤ その他感想や参考事項

- ・外回りが多い職場でメモを取る際には下敷き付きのものを用意したほうがいいです。もしマイナビ等を通して短期のインターンシップに行こうかと考えているのであれば、協定型のインターンシップに参加する方がいいと思います。なぜなら学校からの支援があるため何かあったとしても連絡して頼れる人がいるため安心して取り組むことができるからです。また、事前にビジネスマナー講習もあるためしっかり準備したうえで取り組むことができます。
- ・初日は大変緊張すると思うので、礼儀作法、持ち物、会社までの行程などを事前にしっかりと確認しておくことが大事だと感じました。また、指示を受けた際、すぐに取り出せるようメモ帳とボールペンはインターンシップの間は常に持ち歩くべきだと思います。
- ・私が行かせて頂いた実習先では、3D CAD についての作業がほとんどだったが、大学の講義である程度技術を習得した状態だったので、基本操作は復習程度で終わり、実践型の課題に早めに取りかかることができた。そのため、自分が行くインターンシップの職業において必要になる技術などが分かる場合は、それを多少学んだ状態でインターンシップを迎えることでより高度な技術を学べる可能性がある。
- ・大学生活についての話をよく聞かれるので、自分が所属している団体(部活やサークル)の説明を簡潔に、分かりやすく説明できるようにしておく。

大学に対する受入先企業・団体からの意見・要望等（抜粋）

①インターンシップの制度に関すること

- ・環境系分野の学生で公務員志望であれば生活環境課が適切かと思いますが、実習スペースや業務の都合上受け入れ人数に限りがあります。今回のように2名の実習であればフォローが行き届きますのでよろしくお願いします。
- ・今回は定員オーバーした時点で募集を打ち切っていただいていたと思いますが、次回可能であれば弊社を希望する学生全員と面談して、受入学生を選考したいと考えています。
- ・本市では、各課に配属し、実務体験を行うインターンシップをプログラムしています。そのため、受入課がインターンシップ生を受け入れられる日程が限られており、各学生さんの都合のよい日程が様々で調整が難航しました。実習を希望される場合は、こちらの提示した日程でできる限り参加していただきますよう調整をお願いしたいです。

②就業体験の内容などに関すること

- ・授業で3D-CAD を使用されているということでスムーズに実習に取り掛かれました。要望としては、実習初日は CAD のスキルを測るのに時間を要します。課題が本人のレベルと合わない可能性があります。できればCADをどこまで使えるのか、どういった内容の授業が行われているか持参していただければと思います。
- ・当課が実施する事業について学んでいただき、学生目線で新たな取組の提案をしていただきました。とても素晴らしい提案をしていただき、大変感謝しております。
- ・幅広く多くのことに取り組んでいただきましたが、参加される前から目的を明確にされていたことで、多くの学びを得ていたと感じます。来年度も実施予定のため引き続き学生様をご推薦いただけますと幸いです。また、共同研究もしていることから共同研究をしている研究室もしくはその研究室を目指す学生様をご推薦いただくと今後の研究にも役立つと思いますのでよろしくお願いいたします。

③事前研修・事前打ち合わせなどに関すること

- ・事前打ち合わせの際に大学との連絡がうまく取れず、日程の調整が遅れてしまったので、改善していただけると幸いです。また、実習日誌など、手書きで対応させていただきましたが、データ等でやり取りできると時間の短縮につながるのでは今後ご検討いただければと思います。
- ・実習にあたっての注意事項など、大学独自で作成され、実習生の事前の理解が深まり、的外れな質問もなく、実習もスムーズに進み、効果的な実習につながりました。
- ・事前打ち合わせや報告書などインターンシップの仕組みがしっかりしており、安心してインターン生の指導ができました。
- ・公務員の中でも、行政職か、技術職か、技術職の中でもどの専門分野を念頭に置いているのか等をあらかじめ実習生の方から聞き取り、その上で実習レポートを作成していただくと、受け入れ側としては準備がしやすくなります。また、実習生の方の希望にも沿いやすくなると思います。

④学生に関すること

- ・就職してからのミスマッチを防ぐためにも今回のように前向きな学生さんの継続的な派遣をお願いしたいと思います。
- ・県型保健所に関心の高い学生さんにご参加いただけたことで、その反応の良さから対応した保健師も 業務へのモチベーションが上がる効果があり感謝しております。今後も意欲の高い学生さんの参加を歓迎いたします。
- ・今年度のインターンシップの学生は、公務員志望でもあり、意識も高く良かったと感じています。
- ・学生さん達には、高い意識を持って参加頂けました。ほぼ実際の形の研究開発ワークに対し、真剣に取り組んでいただいたので、とても良い形でインターンシップを終えることができました。
- ・「県立大の学生さんはよい学生ばかりですよ」と前任者からの言葉がありました。その言葉に間違いはなく、今回も非常に優秀な学生でした。優秀な学生に実習先を選んでいただけたことを感謝しております。ありがとうございました。
- ・やはり仕事の能力というより協調性・コミュニケーション能力は非常に大切になってきます。笑顔も大切ですね。会社という組織に入るなら意識的に努力することが必要になります。

⑥ その他

- ・これまでお越しいただいている学生の方も含め、しっかり教育が届いていると感じております。今後ともよろしく願いいたします。
- ・実習日誌の電子化をお願いしたい。(複数あり)
- ・業界紹介や企業紹介ができる機会(イベント等)を提供いただけると有難いです。

今年度のインターンシップの成果と今後に向けて

① インターンシップの成果

令和5年度のインターンシップガイダンスは、令和4年6月の文部科学省・厚生労働省・経済産業省の合意による「インターンシップの推進に当たっての基本的な考え方」（いわゆる三省合意）に基づき、本学の2年生・3年生・院生を対象に4月下旬に実施いたしました。

この三省合意では、就業体験等一定の基準を満たしたインターンシップにおいて、各事業所が取得した学生情報を広報活動や採用選考活動に使用できるよう見直しが行われました。こうした状況のなかで実習の機会をいただいた学生たちは、社会人として「働く」とはどういうことかを体験し、自己の職業適性や将来設計についてじっくり考えることができました。夏季休業中の一定期間にわたる就業体験で、様々なことを感じ、学び、成長したことを、実習後のレポート、実習報告会の様子やアンケート結果から感じました。それぞれの体験が、これからの大学での学びや、キャリア選択に活かされるものとおおいに期待しています。

ア) 昨年度から協定型インターンシップの対象が、学部2年生にも広がったこともあり、学内ガイダンスには約 350 名の学生が参加しました。また、インターンシップに賛同いただける企業・公共団体も前年度に約 1.5 倍になり、150 弱の事業所から学生の受入が可能であるとの回答をいただきました。このうち、約 90 名の学生のマッチングが成立しました。日数においては、参加者の約9割が5日間以上の就業体験をさせていただき、実習日数が変更になったり、オンライン実習になった学生たちもプログラムを工夫していただいたおかげで、貴重な就業体験の場となったようです。参加学生の満足度も、4.62 点(5点満点)と非常に高い値を示していることから、学生が所期した参加目的・目標が達成されたものと考えられます。

なお、本学では、次年度より2年生のインターンシップをキャリアステップと称しますので、ご理解をお願いします。

イ) 参加学生は、試行錯誤を重ねながら与えられた業務に一生懸命に取り組み、それぞれの実習先で職場の方々から丁寧に指導を受け、有意義な話を伺うことで、自己の強みや課題に気づき、成長を感じています。同時に、組織として業務を遂行するには、相互のコミュニケーションやチームワークがとりわけ重要であると実感しているところです。

ウ) 就業体験期間中に本学課員で県内の実習先を訪問させていただきました。受

入先に対する理解が深まり、丁寧な指導や様々な配慮もしていただいていることが感じられました。また、お忙しいなか、実習日誌に、ほぼ毎日講評・反省点を記入していただきました。実習生は、毎日振り返りをするにより、多くのことを学ばせていただいたようです。ご協力に心より感謝いたします。

エ) インターンシップの受入先の拡大については、求人票に検討する旨を記入いただいている事業所や、卒業生がお世話になっている事業所等に問合せを行い、3月下旬に受入の可否を確認しました。

本学ホームページ(<https://www.usp.ac.jp/shushoku/intern/>)に受け入れ依頼と受け入れに必要な書類を掲載しています。インターンシップ生の受入可能な企業および団体様は、所定の様式にて本学にご連絡ください。

② 今後に向けての検討課題

ア) 実習日および実習期間について

本学のインターンシップは夏季休業期間に設定しています。実働期間は先述いたしました三省合意に則り、原則5日間以上でお願いしています。参加学生へのアンケート結果では、適当な実習期間として、1週間程度(5日間程度)と答えている学生が7割となっております。その一方で、実習期間として、2週間程度(10日間程度)の継続性のある業務や課題に取り組む経験(課題解決型実習)を望む学生も3割ほどおり、実習後の満足度も高い傾向にあります。とはいえ、受入先にとっての負担は、長期間になるほど大きくなるため、期間の設定は、実習内容と負担のバランスを考慮し、今後も受入先にて決定していただきたく思います。

夏季休業期間中であっても集中講義、部活動やサークル活動(大会等)等で日程の調整がつかず、参加を断念する学生もいます。そのため、指導に対して負担をかけることとなりますが、実習日数はできるだけ確保し、実習期日がある程度柔軟に(受入れ先と学生が協議のうえ)設定することが可能であるならばさらに多くの学生の参加が可能になると思われれます。

イ) 実習プログラムについて

受入が決まった段階で、できるだけ早期に実習プログラムを学生に示していただくように依頼しています。実習の期日や内容は、原則として受入側で決めていただいておりますが、学生の興味や希望を知ったうえで実習プログラムに反映していただいたところもありました。学生は、申込時に事前研究として、企業研究をしたうえで実習目的や体験内容の希望をレポートに書き、受入先に提出し

ています。このレポート作成時に、できるだけ具体的に志望理由や興味関心のある業務、現在勉強していること等をわかりやすく明記するよう今後も指導する必要があります。また、メール、電話、対面など方法を問わず学生と事前打ち合わせをしていただくと、さらに相互理解が深まり、実習への意欲が高まると思われます。

ウ)インターンシップをより良いものにしていくには、受入先企業・団体と大学との連携が不可欠です。今後も連絡を密にし、インターンシップの目的と意義を共有し、状況を見極め柔軟に対応しながら、学生のキャリア選択の軸の形成に寄与するよう進めていく必要があります。